

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	神戸親和女子大学
設置者名	学校法人親和学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	総合文化学科	夜・通信	33	—	50	83	13	
	国際文化学科	夜・通信		2	50	85	13	
	心理学科	夜・通信			41	76	13	
発達教育学部	児童教育学科	夜・通信		4	187	224	13	
	心理学科	夜・通信			41	78	13	
	福祉臨床学科	夜・通信			7	44	13	
	ジュニアスポーツ教育学科	夜・通信	17		54	13		
発達教育学部(通信教育部)	児童教育学科	夜・通信	8	—	8	16	13	
	福祉臨床学科	夜・通信		14	22	13		
(備考) ・2019年4月付にて発達教育学部福祉臨床学科(通学部、通信教育部ともに)募集停止。なお、通信教育部編入学においては2021年4月付にて募集停止。 ・2021年4月付にて文学部総合文化学科を国際文化学科に名称変更。 ・2021年4月付にて発達教育学部心理学科を募集停止、文学部心理学科を新設								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

【通学部】 https://swans.kobe-shinwa.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp シラバスを照会する際に、キーワードに【実務経験有】と入力することで実務経験のある教員を調べることができる。 【通信教育部】 https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/news/post_104.php

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	神戸親和女子大学
設置者名	学校法人親和学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.shinwa-gakuen.jp/gaiyo/sosiki_mei_riji.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	公益財団法人役員	2020. 5. 27 ～ 2023. 5. 26	財務担当
非常勤	公益財団法人役員	2020. 5. 27 ～ 2023. 5. 26	組織運営体制及び 財務のチェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	神戸親和女子大学
設置者名	学校法人 親和学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>【通学部】 通学部のシラバスの項目には、科目ナンバリングコード、授業の目的、到達目標、各回の授業計画、授業方法、予習・復習・宿題など(内容・時間)、評価方法、評価基準、課題へのフィードバック、教科書・参考書、授業・準備学習のアドバイスがあり、科目担当者が作成し、学生に示している。 作成過程としては、完成予定の前年度12月上旬にシラバスFDの開催、12月中旬に各科目担当教員に記載内容等についての説明及び作成依頼を文書で行っている。提出期限は、1月下旬としている。また、シラバスチェックを学長から各学科長及び教務委員に委嘱し、実施している。 ホームページでのシラバスの公開時期： 3月中旬</p> <p>【通信教育部】 通信教育部の学修形態としては通信授業としての「テキスト履修科目」と、面接授業としての「スクーリング履修科目」がある。それぞれについて、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した「学習の手引き」(シラバス)を作成している。 作成過程としては、完成予定の前年度12月上旬に各科目担当教員に記載内容等についての説明及び作成依頼を文書で行っている。提出期限は、1月上旬としている。また、シラバスチェックを学長から各学科の通信教育部運営委員会委員に委嘱し、実施している。 なお、「学習の手引き」(シラバス)については、通信教育部ホームページで公開している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>【通学部】 https://swans.kobe-shinwa.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p> <p>【通信教育部】 https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/learning/text_curriculum.php 及び https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/learning/schooling_curriculum.php</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

【通学部】

通学部では、シラバスに、評価方法（授業への取り組み：授業態度や意欲・発表等、確認テスト：小テスト・期末テスト等、レポート：小レポート・期末レポート等）の詳細や評価基準を明記のうえ、理解の深度や理解した内容の表現、説明等によって科目ごとに評価基準を設けるなどの例を示しており、その評価に基づき単位認定している。

そのシラバスは、すべて大学ホームページにて公開、明示している。

【通信教育部】

通信教育部では単位修得に必要なレポート提出・合格、科目修了試験受験・合格及びスクーリング受講・合格（出席ポイントの充足とスクーリング試験等の合格）などの各要件を科目ごとに設定し、「学習の手引き」に記載し、定められた要件に合格することで単位認定を行っている。なお、各授業科目の成績評価の客観性や厳格性を担保するために、レポート、科目修了試験及びスクーリングについては、各授業科目それぞれに評価基準を設け、「学習の手引き」（シラバス）に明示している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【通学部】

通学部では、GPAを導入しており、履修規程にも以下のように規定している。
また、この算出方法については学生要覧、ホームページでも公表している。
成績の分布状況も学科・学年ごとに学内で把握している。

< 計算方法 (小数点第3位四捨五入) >

$$GPA = \frac{(単位数 \times ポイント) の合計}{履修登録総単位数}$$

< 「成績通知書」及び「成績・単位修得証明書」の表記とポイント >

判定	素点評価	成績評価	ポイント	成績評価基準	
合格	100～90点	優	4.0	到達目標を達成し、優れた成果をおさめている	
	89～85点		3.5		
	84～80点		3.0		
	合格	79～75点	良	2.5	到達目標をおおむね達成している
		74～70点		2.0	
		69～65点	可	1.5	到達目標をある程度達成している
	64～60点	1.0			
不合格	59～0点	不可	0.0	到達目標を達成していない	
合格	—	認定	—	他大学、留学制度等で修得した単位認定及びTOEIC、TOEFL iBT、実用英語検定による単位認定 ※GPAの対象としない	
	—	合	—	知識および技能に係る学修により単位認定到達目標を達成している ※GPAの対象としない	
不合格	—	否	—	到達目標を達成していない	

なお、グレード別クラスを設けている授業科目及び100点満点で評価しない授業科目は、GPA算出の対象としていない。

【通信教育部】

通信教育部では、GPAを導入しており、「学生要覧」に以下のように記載している。また、算出方法等については通信教育部ホームページでも公表している。

< 計算方法（小数点第3位四捨五入） >

< 入学時から所属学年末までに修得したすべての科目で得たポイント(下表)
×当該科目の単位数の合計 > の総和

GPA =

入学時から所属学年末までに学習可能な履修登録科目の単位数の合計

< 「成績証明書及び「履修状況表・成績通知書」の表記とポイント >

点数	「成績証明書」 の 表記	「履修状況表・成績通知 書」の 表記 <グレード>	ポイン ト
90～100	A	A+	4.0
85～89		A	3.5
80～84		A-	3.0
75～79	B	B+	2.5
70～74		B	2.0
65～69	C	C+	1.5
60～64		C	1.0
0～59	(記載なし)	D	0.0

客観的な指標の
算出方法の公表方法

【通学部】

<https://www.kobe-shinwa.ac.jp/campuslife/lecture/gpa.html>

【通信教育部】

<https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/learning/gpa.php>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【通学部】

通学部では以下の通りディプロマポリシーを制定し、その学位を授与するためのカリキュラムポリシーに則りカリキュラムを策定し科目を置いている。その上で、厳格な成績評価のうえ単位を認定し、卒業要件にあてはまる単位修得を判定した後に、教務委員会を経て教授会にて審議のうえ、学位を授与している。

また、学修成果の評価を行うため、アセスメントポリシーを定めている。

ディプロマポリシー

〔文学部〕

国際文化学科

国際文化学科では、本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たした上で、(1) 日本語運用能力や、英語・中国語のコミュニケーション能力を高め、異文化間交流を積極的に行う力、(2) 国際的な視野にもとづく批判力、判断力、課題解決力を備え、社会が抱えるさまざまな問題に積極的に関わっていく力、(3) ICT を利用し、国際社会に発信し、新しい情報社会に参画する力、を身につけ、次の①、②に掲げる専門的な資質能力のうち少なくとも1つを修得した者に対し学位を授与します。

①日本語についての正しい知識や運用能力を高め、日本文化の文化的・歴史的背景を、人文学の方法論を用いて判断・理解することで、人や文化に深い関心と理解を持ち、自ら課題を設定・探究することができる。

②国際共通語としての英語の理解力と表現力を高め、国際文化への正しい理解と心的態度の醸成を通じて、地球規模の共生社会に主体的に参加できる。

心理学科

心理学科では目指すべき人材像として、「心理学的な視点や手法を用いて様々な組織や企業の活動をサポートし発展に貢献できる人材、または心理臨床の知識と技術をもとに、自己及び人々の心身の健康と共感的で円滑な人間関係の構築に貢献できる人材」掲げる。このような人材を養成するため、本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たした上で、次の①～④に掲げるねらいを達成した者に対し学位を授与します。

①科学的、倫理的、合理的方法により人間を理解する力を身につけている。

②心理学の研究方法ならびに、心理学全般の基礎知識を身につけている。

③心理学の学びを踏まえ、人々の価値観や信念、環境の多様性を理解し、様々な人々と関係性を構築する能力、連携・協働して社会で活躍できる能力を身につけている。

④心理学的な視点により、様々な組織、企業での活動を支える力（マーケティング力やリーダーシップなど）を身につけている。または、公認心理師や臨床心理士など心の専門家としての知識、技術、倫理観を身につけている。

〔発達教育学部〕

児童教育学科

児童教育学科では、本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たした上で、子どもの教育と発達に関する専門的知識と技能を修得し、全人的な教養に裏打ちされた専門性と豊かな実践力を身に付けた教育・保育人材として、下記の専門的な能力・資質を身に付けた者に対して学位を授与します。

①使命感と責任感をもって人間愛にあふれた教育・保育を実践することができる。

- ②教育・保育に関する専門的知識や技能に基づいて主体的・創造的に思考し、判断し、表現することができる。
- ③豊かな社会性や人間関係形成力を養い、他者と協働することができる。
- ④教育・保育に関する国際的な視野をもって社会に貢献し、地域に根ざして活動することができる。

福祉臨床学科

福祉臨床学科では、本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たした上で、社会福祉に関する専門的知識と技能を身に付け、共生の精神を学び、次の①～③に掲げる専門的な資質能力のうち少なくとも1つを修得した者に対し学位を授与します。

- ①社会福祉原理・思想を学ぶとともに福祉専門職として必要な知識・技術・価値を身につける。
- ②障がい者から高齢者、子ども等における対人援助の重要な知識や専門的な技能を持つ社会福祉専門職（社会福祉士・保育士）として活動する力を身につける。
- ③地域社会における社会活動に積極的に貢献できる力を身につける。

ジュニアスポーツ教育学科

ジュニアスポーツ教育学科では、本学の課程を修め、卒業要件と必修等の条件を満たしたうえで、子どもの抱える発達と教育の諸問題に対応する専門的知識と技能を有し、スポーツ教育を担う力を身につけ、次の①～③に掲げる専門的な資質能力のうち少なくとも一つを修得した者に対して学位を授与します。

- ①学校教育、学校体育・スポーツについての専門的知識を有し、学校等での臨地調査・実習を通して、健康・スポーツに関わる教育活動を、企画・実践・探求することができる。
- ②スポーツのパフォーマンス力の向上や心身の健康・発達に関する専門的知識を有し、学校、スポーツクラブ等の訪問、調査、ボランティアを通して、スポーツの指導を、企画・実践・探求することができる。
- ③スポーツクラブ等の組織経営及び地域スポーツの活性化に関する専門的知識を有し、地域の健康・スポーツ関連機関・施設等の訪問、調査、ボランティアを通して、スポーツクラブや地域の課題を発見するとともにその解決の手立てを企画・実践・探求することができる。

【通信教育部】

通信教育部は「主として通信教育の方法による教育を受ける機会の拡充と、総合的判断力を持ち主体的に社会に対応できる人間を育成すること」を目標とし、教育課程におけるテキスト並びにスクーリングによる学修と学外での実習、さらには課程外における実践的活動とを総合的に結びつけ、課題解決力や企画構成力を涵養し、コミュニケーション力を育むことにより、教育理念の実現をめざす。

発達教育学部の教育目標は、「豊かな教養と専門的知識を持ち、他の人々と協力して人間の発達と教育にかかる課題に取り組み、その解決に持続して努力できる人材、さらにそのような協働の活動においてイニシアティブのとれる人材を育成する。」であり、当該目標に照らして各学科において定められたねらいを達成することを課程修了の要件とする。

また、学位は、各学科の教育目標を達成するために設定された科目を履修し、必要単位を修得した者に授与する。

〔発達教育学部〕

児童教育学科

児童教育学科では、本学の課程を修めるために定める必修科目、選択必修科目を含めて必要となる単位数を修得し、卒業要件を満たしたうえで、本学科が掲げる教育目標である「子どもの教育と発達に関する専門的知識と技能をもった実践力のある人材を育成する。」に準拠して、次に挙げる専門的な資質能力を身に付けた者に対し学位を授与する。

- ①使命感と責任感をもって人間愛にあふれた教育・保育を実践することができる。
- ②教育・保育に関する専門的知識や技能に基づいて主体的・創造的に思考、判断し、表現することができる。
- ③豊かな社会性や人間関係形成力を持ち、他者と協働することができる。
- ④教育・保育に関する国際的な視野をもって社会に貢献し、地域に根ざして活動することができる。

福祉臨床学科

福祉臨床学科では、本学の課程を修めるために定める必修科目、選択必修科目を含めて必要となる単位数を修得し、卒業要件を満たしたうえで、本学科が掲げる教育目標である「社会福祉に関する専門的知識と技能を持った人材、とりわけ、人々と共生の福祉の心をもった人材を育成する。」に準拠して、次に挙げる専門的な資質能力を身に付けた者に対し学位を授与する。

- ①社会福祉の原理・思想を理解し、社会福祉専門職として必要な知識・技術・価値を体現することができる。
- ②子どもから障がい者、高齢者等における対人援助の重要な知識や専門的な技能をもって社会福祉専門職として活動することができる。
- ③地域社会における社会活動に積極的に貢献することができる。

なお、通信教育部の単位の計算方法は、大学通信教育設置基準に基づいて適切に行っている。通信教育独自の学習方法であるテキスト履修科目については、45時間の学修を必要とする印刷教材等（指定テキスト）による学修をもって1単位とし、「学習の手引き テキスト履修科目編」（シラバス）において、単位数に応じて必要となる学習時間を明示している。また、スクーリング履修科目では、「学習の手引き スクーリング履修科目編」（シラバス）に授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間を掲載して単位数に応じて必要となる学習時間を明示している。通信教育部では単位修得に必要なレポート提出・合格、科目修了試験受験・合格及びスクーリング受講・合格（出席ポイントの充足とスクーリング試験等の合格）などの各要件を科目ごとに設定し、定められた要件に合格することで単位認定を行っている。

卒業の認定に関する方針の公表方法	<p>【通学部】 https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-05.html?id=anchor01</p> <p>【通信教育部】 https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/fresh/#threePolicies</p>
------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	神戸親和女子大学
設置者名	学校法人親和学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r02/k_skg.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r02/k_skg.html
財産目録	https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r02/k_skg.html
事業報告書	https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r02/k_skg.html
監事による監査報告(書)	https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r02/k_skg.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 事業計画書 対象年度: 2021年度)
公表方法: https://www.shinwa-gakuen.jp/zaimu/r03/y_jks.html
中長期計画(名称: 対象年度:)
公表方法:

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/value/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/value/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-01.html) (概要) 豊かな教養と専門知識をもち、日本の言語文化の継承と発展を担い、国際的な視野を備えた人材、さらに地球規模の共生社会に主体的に参加する人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-05.html) 本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たしたうえで、各学科の専門的知識や技能を修得した者に対して学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-10.html) (概要) 卒業認定及び学位授与の基本方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、共通教育科目及び専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行います。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-04.html) (概要) 国際文化学科 「論理的文書構成力」、「英語等運用能力」、「情報活用能力」の3つの基礎能力を求めます。 心理学科 心理学の専門的知識を学修するとともに、柔軟性や広い視野を持ち、様々なことを積極的に学ぶことを求めます。

学部等名 発達教育学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-01.html)

<p>(概要)</p> <p>豊かな教養と専門的知識をもち、他の人々と協力して人間の発達と教育にかかる課題に取り組み、その解決に持続して努力できる人材、さらにそのような協働の活動においてイニシアティブのとれる人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-05.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たしたうえで、各学科の専門的知識や技能を修得した者に対して学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-10.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>卒業認定及び学位授与の基本方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、共通教育科目及び専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-04.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>児童教育学科</p> <p>子ども理解や教育・保育方法に関する理論を学ぶとともに、行事やボランティア活動に参加したり、異文化交流などにも積極的に参加することも求めます。</p> <p>ジュニアスポーツ教育学科</p> <p>学校体育・スポーツに関すること、スポーツのパフォーマンス力の向上や心身の健康・発達に関すること、スポーツクラブ等の組織経営などに関することを専門的に学ぶことを求めます。</p>
<p>学部等名 通信教育部発達教育学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-01.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>豊かな教養と専門的知識をもち、他の人々と協力して人間の発達と教育にかかる課題に取り組み、その解決に持続して努力できる人材、さらにそのような協働の活動においてイニシアティブのとれる人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法： https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/fresh/#threePolicies)</p>

<p>(概要)</p> <p>本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たしたうえで、各学科の専門的知識や技能を修得した者に対して学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法： https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/fresh/#threePolicies)</p>
<p>(概要)</p> <p>通信教育部では、卒業認定及び学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、共通教育科目群及び専門教育科目群を体系的に編成し、通信教育独自の学習方法であるテキスト履修科目と集中講義形式で開講するスクーリング履修科目との適切なバランスの下に、講義、演習、実技、実習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法： https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/fresh/#threePolicies)</p>
<p>(概要)</p> <p>通信教育部は、「通信教育の方法による教育を受ける機会の拡充と、総合的判断力をもち主体的に社会に対応できる人間を育成すること」を目的としており、印刷教材等による授業であるテキスト履修科目では自主的自律的に学習すること、面接授業であるスクーリング履修科目では積極的能動的に受講することを求める。</p> <p>そのため、通信教育部では、児童教育または社会福祉を学ぼうとする意欲があり、同時に、以下の点を満たしている人に入学してほしいと考えている。</p> <p>①専門的知識、技能を学ぶ前提として、入学後の学びに必要な基礎的教養を幅広くしっかりと身につけている人。</p> <p>②学習と生活とのバランスを取り、持続的に学ぼうとする強い意志がある人。</p> <p>③他者を尊重、理解し協同しようという姿勢を持っている人。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-02.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3人	－					3人
文学部	－	16人	4人	1人	0人	0人	21人
発達教育学部	－	37人	12人	4人	0人	0人	53人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		212人					212人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://swans.kobe-shinwa.ac.jp/gyoseki/japanese/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学では、学生にとってより良い学びを実現できるよう、活発的にFD活動を実施している。とくに、2020年度は、コロナ禍でのオンライン授業の実施に向けた研修を中心に行った。</p> <p>【通学部】 <2020年度FD活動内容> ○オンライン授業に関するFD研修会 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く状況でも、学生の学修の機会を確保するため、ZoomやMicrosoft Teamsを活用したオンラインによる遠隔授業の実施に向けて、システムの仕組みや活用方法について理解を深める研修会を4月と5月に各2回、計4回実施した。 4月の研修会には、本学の教員70名、全体の95.9%、5月の研修会には66名、全体の90.4%の教員が参加した。 ○FD・SD研修会 「オンライン授業の内容及び方法の改善に向けて」、「授業の質向上をめざして」をテーマに学生に実施した「オンライン授業による学習に関するアンケート」の結果を基に授業改善方法についてグループで討論した。また、事例を示しながらオンライン授業と対面授業の質を高めるための研修会を実施した。本学の教職員69名が参加した。 ○学科別FD活動 学科別にテーマを決め、FD活動を実施した。本学の教員67名、全体の91.8%が参加した。</p> <p>【通信教育部】 本学通信教育部では、学生にとってより良い学びを実現できるよう、FD活動を実施している。 <2019年度FD研修会内容> 大学通信教育の現代社会における意義を改めて確認し、本学通信教育部のこれからの在り方を考える機会とすることを目的として、外部講師を招いてFD研修会を開催した。また、レポート作成におけるワープロ使用可とそれに伴う添削指導について、どのように対応するかについて意見交換を行った。 (2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、実施を見合わせた。)</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	120人	89人	74.2%	300人	274人	91.3%	若干名	0人
発達教育学部	295人	201人	68.1%	1,360人	1,211人	89.0%	欠員の 範囲	0人
発達教育学部 (通信教育部)	200人	12人	6%	1,900人	315人	16.6%	400人	29人
合計	615人	302人	49.1%	3,560人	1,800人	50.6%	400人	29人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	49人 (100%)	2人 (4.1%)	39人 (79.6%)	8人 (16.3%)
発達教育学部	418人 (100%)	11人 (2.6%)	377人 (90.2%)	30人 (7.2%)
合計	467人 (100%)	13人 (2.8%)	416人 (89.1%)	38人 (8.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 幼稚園、保育所(園)、認定こども園、小学校、中学校、高等学校、公務員、サービス業、卸売・小売業、ほか				
(備考) 本学では、教職及び保育士養成課程を有し、免許・資格取得の支援に力を入れており、採用につなげている。また、民間企業への就職希望者には、1年次からキャリア教育を行い、本人の希望が叶うようきめ細かく支援している。				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	56人 (100%)	45人 (80.4%)	4人 (7.1%)	6人 (10.7%)	1人 (1.8%)
発達教育学部	424人 (100%)	406人 (95.8%)	4人 (0.9%)	12人 (2.8%)	2人 (0.5%)
合計	480人 (100%)	451人 (94.0%)	8人 (1.7%)	18人 (3.8%)	3人 (0.6%)
(備考) 編入生は含まず。その他は、休学歴があり在学期間不足の者。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>【通学部】 通学部のシラバスの項目には、授業の目的、到達目標、各回の授業計画、授業方法、予習・復習・宿題など（内容・時間）、評価方法、評価基準、課題へのフィードバック、教科書・参考書、授業・準備学習のアドバイスがあり、科目担当者が作成し、学生に示している。</p> <p>【通信教育部】 通信教育部の学修形態としては通信授業としての「テキスト履修科目」と、面接授業としての「スクーリング履修科目」がある。それぞれについて、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した「学習の手引き」（シラバス）を作成している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>【通学部】 通学部のシラバスには、評価方法や評価基準を明記し、理解の深度や理解した内容の表現、説明等によって評価基準を設けるなどの例を示して評価するよう設定し、その評価に基づき単位認定している。 認定した単位の卒業要件を判定した後に、教務委員会を経て教授会にて審議のうえ、学位を授与している。</p> <p>【通信教育部】 通信教育部では単位修得に必要なレポート提出・合格、科目修了試験受験・合格及びスクーリング受講・合格（出席ポイントの充足とスクーリング試験等の合格）などの各要件を科目ごとに設定し、「学習の手引き」（シラバス）に記載し、定められた要件に合格することで単位認定を行っている。なお、各授業科目の成績評価の客観性や厳格性を担保するために、レポート、科目修了試験及びスクーリングについては、各授業科目それぞれに評価基準を設け、「学習の手引き」（シラバス）に明示している。</p>
--

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	総合文化学科	124 単位	有・無	※50 単位未満/年
	心理学科	124 単位	有・無	※50 単位未満/年
	児童教育学科	124 単位	有・無	※50 単位未満/年
	心理学科	124 単位	有・無	※50 単位未満/年
	福祉臨床学科	124 単位	有・無	※50 単位未満/年
	ジュニアスポーツ教育学科	124 単位	有・無	※50 単位未満/年
発達教育学部 (通信教育課程)	児童教育学科	124 単位	有・無	上限設定なし 単位
	福祉臨床学科	124 単位	有・無	上限設定なし 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： 【通学部】 https://www.kobe-shinwa.ac.jp/campuslife/lecture/gpa.html https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/regulations/ ※以下、履修規程に記載。 前年度の GPA 値が 3.2 以上の者は、1 年間の履修単位の上限を緩和する。また、当該年度の GPA が 1.0 未満の学生に対して学修意欲の確認、履修計画の作成等、指導を行い、学修意欲の改善が認められない者には、退学を勧告することがある。 【通信教育部】 https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/learning/gpa.php		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： 【通学部】 https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/questionnaire.html		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-06.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
文学部	国際文化学科	1・2年生 870,000円 3年生以上 800,000円	230,000円 (※1)	1・2年生 300,000円 3年生以上 280,000円	その他は、施設 設備整備費・教 育充実費
	心理学科 (1年生)	1年生 300,000円			
発達教育学部	心理学科 (2年生以上)			2年生 300,000円 3年生以上 280,000円	
	児童教育学科			310,000円	
	福祉臨床学科			4年生以上 310,000円	
	ジュニアスポーツ教育学科			1・2年生 380,000円 3年生以上 410,000円	
発達教育学部 (通信教育部)	児童教育学科	140,000円	30,000円	15,000円	
	福祉臨床学科	140,000円	(※1)30,000円	15,000円	

※1 通学部、通信教育部ともに、福祉臨床学科は2019年4月から募集停止につき2019年度以降入学金なし。

※通信教育部の資格登録料(免許・資格取得希望者入学時50,000円)、スクーリング受講料(年額約60,000円)、実習委託料(実費:約30,000円)は上記に含まない。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>【奨学金】 学生への経済的支援としては、経済的援助と学習奨励の面から、多種多様な制度で対応している。これら奨学制度については、ホームページや学生要覧及びポータルサイト等に掲載し、常時紹介している。新入生には、入学手続き書類やガイダンス等でも説明し、周知を図っている。 また、通信教育部の学生についても、日本学生支援機構の奨学金制度を学生要覧等に掲載し、周知を図っている。</p> <p>【学生寮】 学生寮として玉結寮、新玉結寮及び国際交流寮を設置している。 大学から徒歩圏内に位置し、85人を受け入れている。寮の入口はオートロック式で、管理人が24時間常駐、防犯カメラも設置している。食事は、講義期間中の平日の朝食と夕食を提供している。食堂、談話室など学生が交流する場もあり、快適に過ごせる環境が整っている。 また、通信教育部の学生については、スクーリング期間中の宿泊先(ホテル等)の紹介窓口を案内している。</p>

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

【就職支援】

正課教育と並行して、自己のキャリアに対する意識づけを図るガイダンスや行事・支援講座等を実施している。全体の就職支援に加え個別支援も重要視しており、キャリアカウンセラーを配置し、学生が主体的に進路選択できるよう学生の個々の状況に応じてきめ細かく対応している。さらに、発達障がい傾向の学生については、学生相談室（カウンセラーが月～金常駐）と連携しサポートを図っている。

進路支援体制としては、キャリアセンターとゼミ担当教員が中心となって学生一人ひとりを支援している。3年次からは、就職活動に必要な一般知識やマナーを身につけることを目的に支援プログラムを展開している。

また、通信教育部の学生についても、教員採用試験の対策講座等を開講している。

【インターンシップ】

将来めざす職業や関連する職業の現場を経験することで、自らの専攻や研究に対する理解を深めると共に適性を知ることによって役立て、志望業種・職種の決定や就業後の適応力を身に付けることを目的に2年次より「インターンシップA・B」を開講している。

【キャリア教育】

「キャリア教育」の領域は、ベイシック・スキルやリベラルアーツ、キャリアデザインを共通教育科目群に位置付けている。社会で働くことの意味や職業観の醸成を通して、自己の適性や勉学の意義を見だし、主体的に大学生生活を送るための科目を正課科目として導入している。

3年次に半期ごとに設定している「キャリアアップA・B」は、基本的な日本語コミュニケーションを軸に言語力や社会・自然に関する知識、論理的思考、表現力、説明力などについて、国語・社会・数学・理科に関する分野の学習を通してキャリア形成に必要な基礎的な能力を高めている。また、1年次から「キャリア探求Ⅰ」、2年次では「キャリア探求Ⅱ」を開講し、グループディスカッションやグループワークを取り入れ、他者と関わりながら自分の考えをわかりやすく伝える力を伸ばしている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

毎年、学校保健安全法に基づき定期健康診断を全学生対象として実施している。なお、健康診断で精密検査が必要と診断された学生については、内科校医が面談し検査の必要性を説明している。また、健康診断結果は全員に郵送している。

日常の健康管理については、看護師と週一回来学する内科校医が健康相談に携わり必要に応じて専門医への紹介も行っている。

学生相談体制としては、学生相談室において臨床心理士が毎日、精神科校医が月二回来室し、適切に相談・助言を行うため学生相談室規程に則り、学生の個人的な問題について対応している。さらに、学生相談委員会に心理相談を円滑に処理・運営するため学生相談室長を中心とした専門部会を設置し、月一回会議を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F128310108776
学校名	神戸親和女子大学
設置者名	学校法人親和学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		132人	131人	151人
内 訳	第Ⅰ区分	81人	70人	
	第Ⅱ区分	32人	47人	
	第Ⅲ区分	19人	14人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				151人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	0人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。